Okasan Monthly
岡三マンスリー　2021年11月　No. 254

県中部を東西に繋ぐ多数アンカー壁　沖縄県

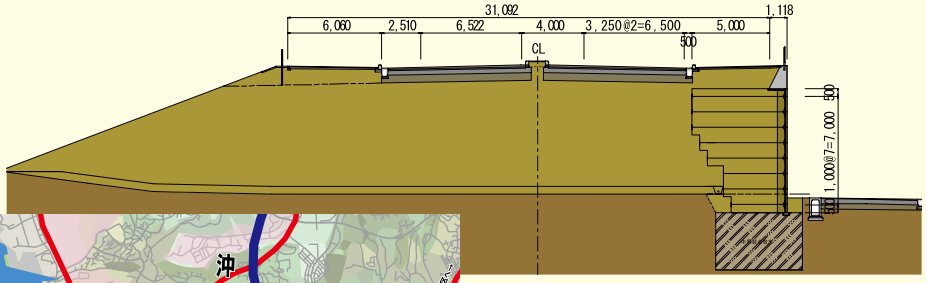
沖縄県の県道「宜野湾北中城線」は、沖縄本島の南北方向を結ぶ国道（58号・329号・330号）や沖縄自動車道とを東西方向に結ぶ幹線として位置付けられた中部圏の主要道路。工業集積地である中城湾港新港開発地域へのアクセス道路として機能しています。

同道は、前出の各幹線同士が最も距離を詰めて併進する地域ゆえに本島各部からの相互連絡の交通流入・通過が一日2万5千台とたいへん多く、ルート上の各交差点は常時混雑を余儀なくされています。さらに今後の中城湾港新港開発地域の進展に伴い交通渋滞の悪化も予想されるため、バイパスルートの整備を含めた4車線化工事を進めています。

バイパスルートは旧道の線形や急勾配を解消する目的があり、延長263mのトンネルを含め丘陵地を切り開いて造成しています。

ただ整備計画全体では用地確保の進捗具合が工期にも影響しており、既存宅地を極力避けながら盛土を構築する区間では「多数アンカー式補強土壁工法」による垂直壁が採用となりました。

また多数アンカー式補強土壁は比較的幅広い土質に対応しているため、現地発生のトンネルズリも盛土材として有効活用されています。



工事概要

発注者　：沖縄県中部土木事務所
工事名　：宜野湾北中城線道路改良工事（H30－2）
施工業者：株式会社内間土建
施工規模：多数アンカー式補強土壁工法　約1,775m^2

お国自慢

支笏湖ブルー

北海道支店　富山　綾華

私が大好きな支笏湖についてご紹介します。北海道千歳市にある日本最北の不凍湖で約四万年前の火山活動によって誕生しました。札幌中心部から約一時間、新千歳空港からなら約四十分の場所にあり、ドライブにもおすすめです。また水質のよさと透明度の高さは有名で環境省の湖沼の水質ランキングで過去何度も日本一に選ばれています。

晴れた日は湖底が見えてしまうほどで通称「支笏湖ブルー」といわれ、見る者を圧倒します！その景色は春夏秋冬、それぞれの季節で異なり、一年を通していろいろな姿に変化します。

春は、桜並木の散歩道を歩いたり夜はライトアップされた夜桜がおすすめ。

夏は、キャンプ場が大人気。最近ではボードの上に立ちパドルを漕いで水面を進む「サップ」なども楽しめます。

秋は、湖畔から見る紅葉。またはカヌーに乗って湖上から色とりどりの景色を見渡すのもおすすめ。「チップ」の名で知られる名産のヒメマスなど秋の味覚も楽しめます。

冬は、支笏湖氷濤（ひょうとう）まつりという湖水を吹きかけて凍らせた氷のオブジェが立ち並ぶ氷の祭典が開催され、夜は色鮮やかなライトに照らされて幻想の世界へ…

季節を問わず「ザ北海道」を満喫できる支笏湖への旅行を是非、計画してみませんか？

ANNIVERSARY 50th おかげさまで創業50周年

取扱商品
道路・盛土　多数アンカー式補強土壁工法　トリグリッドEX　パラリンク　フラットパネル　RRR工法　EDO-EPS工法　ダイプラハウエル管
法面・防災　多機能フィルター　ミニアンカーDO　PDR工法　サビレス100
維持・管理　ARISライナー工法　SWライナー工法　RCGインナーシールα工法　Tn-p工法　ローマットHDB
鉄鋼建材　ライナープレート　コルゲートパイプ
景観・環境　ロッキーステージ　斜面いろどり工法　フォトリックアート

Okasan Monthly
岡三マンスリー　2021年11月　No. 254

文化財の橋「エージング」で風情を維持

長野県大鹿村・小渋橋

南アルプスを背景に清らかな流れをみせる天竜川の支流・小渋川。ここに架かるのが、1957年完成の鉄筋コンクリート橋「小渋橋」です。橋長106m、三連アーチを持つ独特の佇まいで知られ、長野県内に多く残る古いローゼ式アーチ橋のなかでも完成度の高い代表的なものとされています。2011年には国の登録有形文化財にも指定を受けました。

しかし架橋から60年以上が過ぎ経年劣化が目立つようになっていたことから、橋を管理する大鹿村では修繕の必要性に迫られていました。

現在では小渋橋の下流側に2006年完成の「新小渋橋」が架かり国道としての機能がそちらに移されているため、交通インフラとしての同橋の重要性は以前より下がっています。

その一方で新小渋橋上から捉える、小渋橋と南アルプス赤石岳がワンフレームに収まる風情ある景観が知られるようになるなど文化財としての存在感が増していたことから、修繕にあたっては橋としての機能の維持に加えて見た目への配慮もなされることとなりました。またその施工は新設当時に工事を担当した木下建設（株）自らがあたりました。

この修繕工事ではアーチ部分から桁下、橋脚に至るまで劣化している箇所をハツり、モルタルで補修。クラックが発生していた部分もモルタルが注入されました。しかしそのままでは補修部分のつぎはぎ感が否めません。

そこで仕上げに導入されたのが、岡三リビックの「エージング」塗装です。これは通常、人工構造物と景観とのマッチングを図るために人工物を自然の色に寄せるといった用途に用いる技術ですが、この工事では橋全体のくすんだコンクリートの色味を橋の持つ歴史と風格の肝と位置づけこれをカラーチャート化。熟練作業員の手で補修部にその色のくすみを加える方向で実施されました。

これにより一般的に補修工事を終えてスキっとクリーンに仕上がるイメージとは真逆の、仮設足場が取れてもまるで何も補修されていないかのような姿を再び見せたことには地元の方々もびっくり。これまでと変わらない風情を保つことに成功しています。

土木構造物も景観の一部と捉えあえて古びたままの姿にするエージングは、維持補修というジャンルに新しい視点をもたらしました。

工事概要

発注者　：長野県大鹿村
工事名　：
令和3年度橋梁コンクリート補修面
エージング処理工事村道小渋橋線小渋橋
施工業者：木下建設株式会社
施工規模：エージング　約310m^2

徒然月記

記：編集T

「土木」の本

近年はダムブームで写真集が出るなど土木構造物にわかに注目が集まっているが、土木の世界に焦点を当てつつ一般向けな本というものをあまり世の中で見かけない。そんな中でも独特な著作を二冊ほど取り上げたい。

「アンダーグラウンド・都市の地下はどう作られているか」（作　デビッド・マコーレイ　岩波書店）

海外作家の訳本。都市インフラや建築物の基礎など地面の下にあるものを豊富なイラストとともに解説。都市の地中をモグラ視点で見たり、人体臓器模型の血管のように行きかう管路を抜き出すなどユニークな表現の絵で見せる。全体の体裁が絵本的で小学校高学年位からとっつきやすい。

「インフラメンテナンス・日本列島三六五日、道路はこうして守られている」（写真　山崎エリナ　グッドブックス）

道路やトンネルなどのメンテナンス・延命工事の現場風景や携わる人々に焦点を当てた写真集。国土交通省もこれを「第三回インフラメンテナンス大賞」で表彰するなどして注目を集めた。現場の写り具合が無駄にカッコ良く、人々の笑顔にほっこりする。山崎氏は土木系写真集をいくつか出版している。

他にも「こんな面白い土木の本がある」というお勧めがあれば是非教えて下さい。

ANNIVERSARY 50th おかげさまで創業50周年
日本の土台を新しく。
岡三リビック株式会社
LiVIC
東京都港区港南1-8-27 日新ビル　☎03-5782-9080
札幌・盛岡・仙台・高崎・東京・新潟・金沢・長野・静岡
名古屋・大阪・米子・広島・高松・松山・福岡・鹿児島
沖縄リビック・岡三リビックベトナム